

映画監督の堀江貴氏との座談を行いました (2024/2/27)

テーマ：東日本大震災と映画制作、記憶の伝承

場 所：東北大学災害科学国際研究所 小会議室 1

URL：<https://www.movie-diaries.com/saigo-no-iyokyaku-32>

東日本大震災から 13 年を迎えるこの時期に、現在ニューヨークを拠点に世界的に活躍されている、仙台市出身の映画監督の堀江貴氏を当研究所にお招きし、震災関係の映画および経験伝承について対談を行いました。災害科学国際研究所からは、保田真理プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）、デビット・ヌイン特任准教授（津波工学研究分野、地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）、齋藤玲助教（認知科学研究分野）、鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）、ボレー・ペンメレン・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）、今村文彦教授（津波工学研究分野）が、当研究所以外からは、堀江監督と親交のある本学のサイクロトロン核医学研究部の田代学教授、共創戦略センターの成田美子特任教授が参加しました。

東日本大震災被災地のその後を描いた映画『最後の乗客』（本編 55 分）は、コロナで撮影延期を余儀なくされながらも、2021 年 11 月に僅か 6 日間で撮影されました。クラウドファンディングで撮影資金を集め、寒風吹き荒ぶ沿岸部での撮影を支えたのは、仙台市若林区荒浜町の住民の方々やボランティア仲間たちでした。そして、主演の岩田華怜氏（仙台市出身、元 AKB48。映画・舞台で活躍）、富家ノリマサ氏をはじめとするキャストの熟演は見応えあります。

当研究所内で開催された座談会では、映画の印象、感想、今後の活動について意見の交換がありました。大震災の悲惨な情景ではなく、人間の愛情や苦しみ、悲しみを通じた表現の重要性、父娘の関係、死別後の哀しみや葛藤、過去、現在、未来の関係性などの感想が寄せられ、その後、堀江監督から制作の思いや参加者からの感想や疑問などに丁寧にお応えいただきました。各自にとってそれぞれの共感や思い、気づきがあったことも共有できました。いつ、どこで起こるかわからない自然災害です。たとえ、打ちひしがれるような出来事があっても、前に進む強さを描いていくことの大切さも注目されました。座談会の最後には、保田プロジェクト講師から堀江監督に、減災風呂敷がプレゼントされ、作成の主旨やチリの防災大臣への贈呈の際のエピソードが披露されました。

今後、仙台市内（フォーラム仙台 / チネ・ラヴィータ）での一般公開が 3 月 8 日（金）～14 日（木）、1 日 2 回の予定であり、さらに「仙台防災未来フォーラム 2024」では、3 月 9 日（土）13:00～13:30 に「3.11 レジリエンス・トーク ～映画を通じ、世界との架け橋に～」で堀江貴監督が登壇されます。

堀江監督とは、今回の上映に向けて昨年から情報を交換し、今回の座談会を実施しました。今後、この映画を巡るシンポジウムなどを企画していく予定です。

関連記事

ニューズウィーク日本版

「東日本大震災から 10 年後を描いた中編映画「最後の乗客」が欧米の映画祭で数々の受賞！堀江監督にインタビュー」

週刊 NY 生活

「東日本大震災縦軸に父娘描く」

文責：今村文彦（津波工学研究分野）
（次頁へつづく）



減災風呂敷を持つ堀江監督と保田プロジェクト講師



座談会のメンバーの集合写真